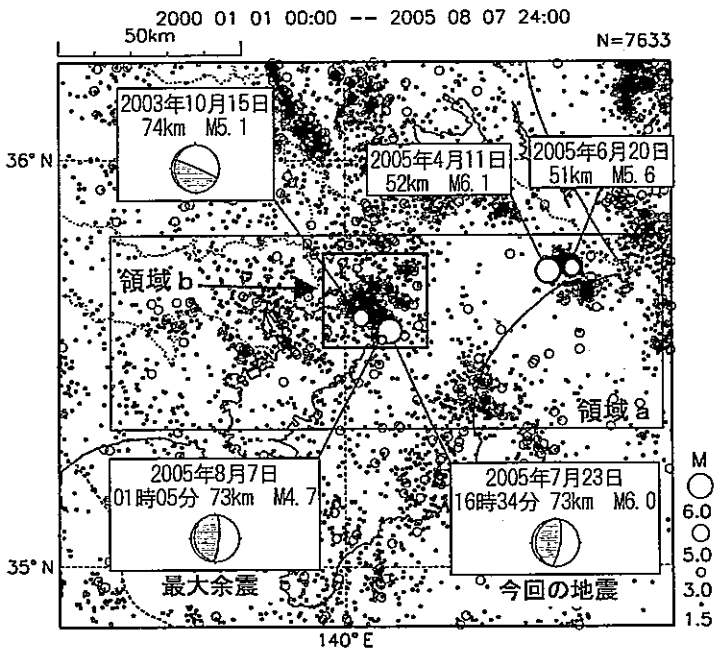


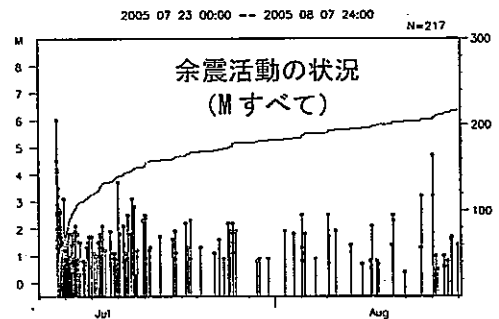
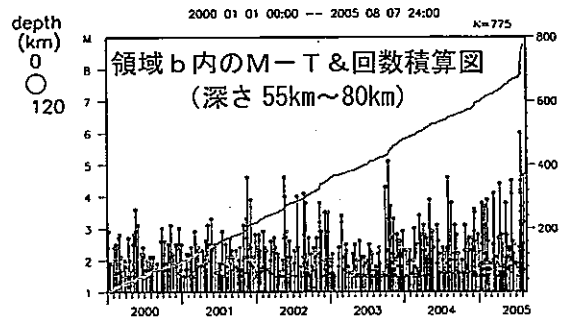
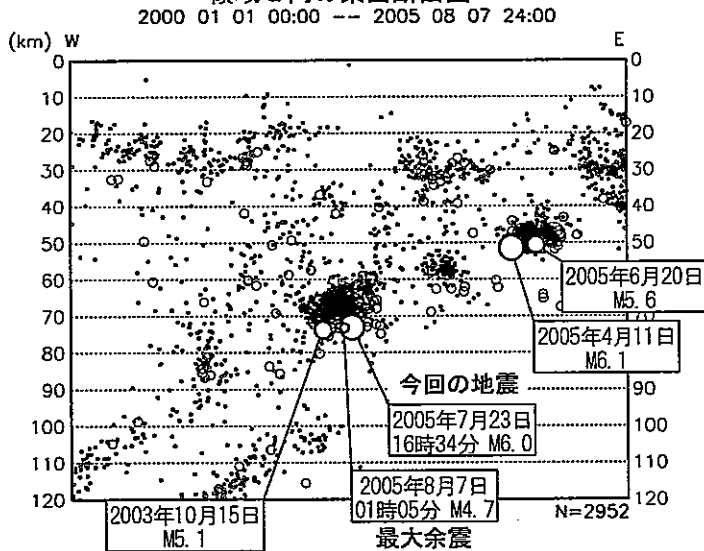
7月23日 千葉県北西部の地震

A 震央分布図 (2000年以降、 $M \geq 1.5$)

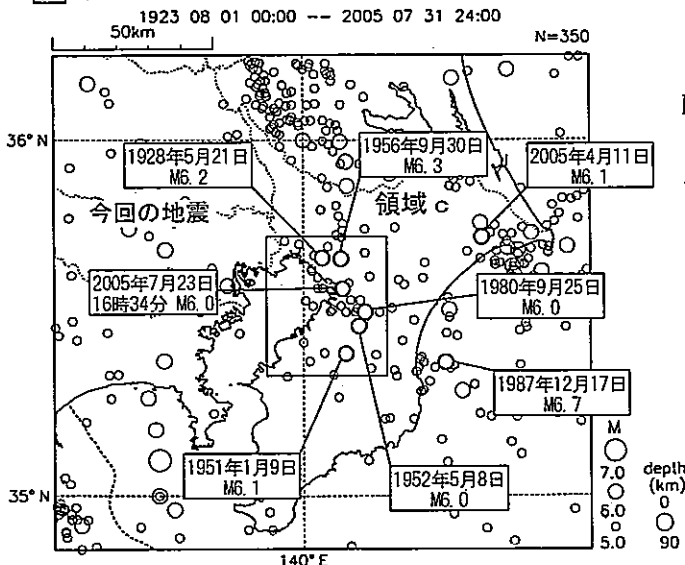


2005年7月23日16時34分に千葉県北西部の深さ73kmでM6.0（最大震度5強）の地震が発生した。発震機構は東西方向に圧力軸を持つ逆断層型であり、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界付近で発生した地震である。8月7日にはこれまでの最大となるM4.7の余震（最大震度4）が発生した。この地震の後、若干地震の増加が見られたが、余震活動は本震-余震型で推移している。今回の地震の震源付近にはクラスタ状の活発な地震活動域があり、同じクラスタ内では、2003年10月15日にM5.1（最大震度4）の地震が発生している。（A）

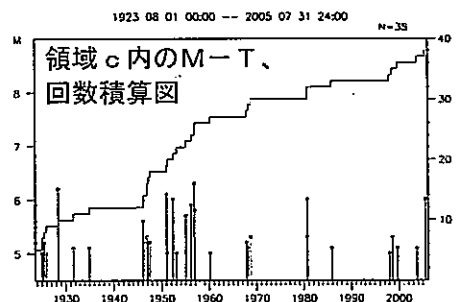
領域a内の東西断面図



B 震央分布図 (1923年8月以降、 $M \geq 5.0$)



1923年8月以降今回の地震の震源付近でM6.0以上の地震が観測されたのは、1980年9月25日のM6.0の地震以来である。また、1950年代にはM6.0以上の地震が3回観測されており、地震活動がやや活発であった。（B）



過去のM6クラスの地震の震度分布比較

